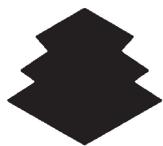


## リニア時代を迎える飯伊地域の資源（11）



### 小笠原氏（2）

～ゆかりの地区で様々な取り組み～

小笠原氏の代表紋 三階菱

#### 1. 旧小笠原家書院400周年祭を実施 ～三穂地区～

10月26日旧小笠原家書院において「旧小笠原家書院築400周年記念式典」が三穂まちづくり委員会により挙行された。寛永元（1624）年頃の建造と推定されることから本年を築400周年として記念イベントを企画された。

式典では、主催者挨拶、小笠原家当主 小笠原 剛氏の挨拶に続き、地元弓道家により演武「一的射礼」が執り行われた。伊豆木小笠原初代長巨が弓の名手であったことに因み、また「射」と「礼」の合一を眼目とする小笠原流弓術の流儀は現代弓道にも引き継いで採り入れられており、その作法に従っての演武であった。

三穂まちづくり委員会では、本年1年をかけたイベントの目的を①旧小笠原家書院の文化的価値・見どころを知る、②旧書院を地域の財産として認識を深める、③伊豆木小笠原の歴史を多くの人に知ってもらう、とした。令和4年の「実行委員会」立ち上げの際には飯田市教育委員会文化財保護活用課、飯田市美術博物館学芸員が加わって関係方面との連携も図った。またイベントのコンセプトを「書院の利用」「書院に親しむ」「書院（伊豆木小笠原氏）を学ぶ」の三本柱とし、以て「ふるさと三穂への理解を深める」（伊那2024. 4月号）こととした。

「親しむ」の一例として、令和3年1月コロナ下で行動制限がなされ、多くの地区が身動きが取れなくなっている中、それを逆手に取り「鬼滅の刃」にあやかった「菌滅の矢を放つ」と称する邪気を払うとした射礼を実施。以後弓道演武を毎年実施し本イベントまで繋いできている。

#### 2. 節目を迎えたもう一つの施設 ～小笠原資料館～

今回、旧小笠原家書院の築400周年と併せ、小笠原資料館の25周年を記念しての「小笠原資料館25周年特別特別展」が開催された（本年12月27日まで開催）。

同館は平成11（1999）年飯田市により竣工。設計は妹島和代+西沢立衛のユニットSANAA（Sejima and Nisizawa and Associates）で、妹島氏のご母堂が伊豆木小笠原から嫁がれているという縁。妹島氏のユニットはこの他に金沢二十一世紀美術館や内外の著名建築物を多数手がけ、2010年建築界のノーベル賞と称されるプリツカー賞、2016年紫綬褒章を受賞。また式典の前には文化功労者選定の朗報も届き式典に華を添えた。建築家を志す、特に女性にとってロールモデルとなる存在といえる。

特別展の開会式では、妹島氏が挨拶に立ち、自身が幼い頃から慣れ親しんでいた旧書院と山との間の限られた空間に合わせる建物形状を考え、敷地全体が史跡であるため地面から浮き上がらせる構造にしたこと、などを披露された。特別展では、小笠原記念館の構造模型を始め、妹島氏およびSANAAの業績を辿る内容となっている。

旧書院と記念館は、伝統建築とガラスを主体とした近代建築の対照的な取り合わせ。記念館に入って見るとエントランスから旧書院全体が絶妙な高さで見ることができ、これも妹島氏の狙ったところだという。インテリアデザインも手掛けられるという妹島氏デザインの椅子に座り心地く眺めを堪能することができる（写真：右）。

我が国を代表する建築家とあって特別展には首都圏をはじめ各地から訪れているという。今後もこの建築物を全国に強力に発信することができるだろう。

旧小笠原家書院築400周年記念祭



小笠原に因み弓道の演武



旧小笠原家書院と小笠原資料館



特別展示・資料館構造模型



小笠原資料館から望む旧書院



### 3. 松尾城址公園 桜が地域に親しまれる ～松尾代田区～

松尾城址は松尾代田区にある。かつて内証を繰り広げた毛賀沢川を挟んでの鈴岡城＝鈴岡城址とは、今は一体化されて飯田市都市計画公園「松尾鈴岡公園」となっている。桜の木が大きくなっており桜の名所として親しまれている。

かつては5月の連休期間に松尾城址・鈴岡城址の公園まつりが実施された。両公園を結んで鯉のぼりを毛賀沢川の上空に泳がせ、松尾城址公園は「大サイコロペア大会、風船上げ、餅投げ」（南信州新聞 平成元年4月30日）などが行われたという。

コロナ禍で祭り・イベントの中止が続いてきた中、近年は飯田商工会議所松尾支部青年部が中心となって出店するなどにより、連休中の人出に対応している。公園の除草作業等は代田区民で行われており環境保全に努めている。

松尾城址公園は桜の名所



(飯田商工会議所 松尾支部提供)

#### 松尾城址桜まつり

### 4. つつじの名所 地域が育てた鈴岡城址公園 ～竜丘・駄科区～

鈴岡公園はつつじの名所として知られ、花の時期が賑わうほか、遊具等が整備されていて子供連れなどの来訪者が多い。毎年5月の連休に「鈴丘公園つつじ祭り」が開催され、「民踊クラブの踊り、カラオケ大会や弓道大会などが臨時売店などと合わせて賑やかに開かれ」（館報たつおか 平成2年7月10日）ていたが、コロナ禍によりイベントの中止が続いた。このところは、「連休中有志による子供向けゲームなど行って少しでも楽しんでもらえるようにしている」（木下駄科区長）という。



(飯田商工会議所 松尾支部提供)

鈴岡公園の歴史を振り返ると、1900（明治33）年頃まで共同墓地として利用されていた現地を明治42年（1909）年駄科地区の青年たちの「駄科同盟会」が公園の造成に取り組み始め、東屋の建設、各戸から庭木の提供を受け植樹、芝貼りなど行い1912（明治45）年4月に開園式を挙行了た。

1971年県史跡指定。2000年に駄科区で「駄科区の振興を考える会」を発足して同公園部会で公園整備について検討を開始。検討を重ねて文化財の価値を守るため土地の形状を変更しないで整備を進める方向を定めた。2011年に二の丸を中心とした公園整備が完成し、同年のつつじ祭りで開園100周年を祝った（以上、南信州新聞 平成24年5月1日）。

史跡としての鈴岡城址には、「年間何件か小笠原氏に関心を寄せる人や城郭研究者と思いき方々が訪れる。そういう場面では地区内で案内ボランティアが対応するようにしている」（同区長）とのことである。

公園（城址）の整備は、城郭（縄張り）を明瞭に見られるようにしておくことが大事で、そのため公園内の竹木の管理・除去は必須。区民のボランティア作業で毎年取り組んでいるが、地域の高齢化と共に年々厳しくなっている。「本年度はNPOいなだに竹Linksに入っただき整備を進めることができた」（同）として、環境を守る新しい担い手に期待している。

#### 鈴岡公園つつじ祭りで行われていた射会



(飯伊弓友会 竜丘支部提供)

### 5. 地域の関連施設の集積を活かす

旧小笠原家書院にしても松尾城址・鈴岡城址公園にしても地元の皆さんの心の拠りどころであり、集いの場所であることが判る。飯伊地域には小笠原氏縁の場所が多く展開しており、全体として魅力を更にアップさせることが可能と考えられる。

(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)